

『天誅組の乱の舞台・五條を散策』

令和4年9月30日 2班担当

●五條の歴史

奈良県の西南に位置する五條市は、古くより吉野川(和歌山県では紀の川)流域に位置し、大和国と紀伊国を結ぶ交通の要衝として、また吉野山地への入口として古来より重視されてきた。南北朝時代に南朝の本拠地である吉野が陥落した際に、後村上天皇が賀名生に入り、一時期南朝が置かれた。現在の五條の基が作られたのは江戸幕府成立のすぐあと。1600年に松倉重政が関ヶ原の戦いの論功で領土を与えられ、大和五条藩が成立、江戸時代に入り1616年に重政が島原藩に移封されるまで存続した。重政は五条藩では城下町である新町(現在の五條新町通り界隈)の振興に努めてその後の繁栄の基礎を作った。その後、幕府の天領となり、1795年に五條代官所陣屋が設置され、河尻春之が赴任した。多数の街道や吉野川の水運など交通の便に恵まれ、南大和統治の中心地として栄えた。旧紀州街道に当たる新町通りが街の中心で、現在も往時をしのばせる家屋が多数残っている。1863年天誅組が五條代官所を襲撃、代官鈴木正信(源内)を殺害し倒幕運動の烽火を上げたことでも知られる(天誅組の乱)。天誅組の本陣は桜井寺に置かれ、一時「五條仮政府」を名乗った。

●天誅組の乱

攘夷倒幕の嵐がふきさぶ中、1863年8月13日、尊王攘夷の断行を神武山陵に祈願するための大和行幸が朝議で決まった。当時、京都の政局は尊王攘夷派が握っていて、彼らの一部には、これを機に一気に倒幕をはかろうとする動きがあり、この機をうかがっていた倒幕急進派の中山忠光らが皇軍の先鋒となるため、翌14日京都を発ち、千早峠を越えて当時幕府の直轄地であった五條に入った。8月17日、天誅組志士30人は一斉に挙兵し、五條代官所を襲い代官鈴木源内を殺害、桜井寺を本陣として、五條新政府を号し、倒幕の旗を揚げた。ところが翌18日、朝議は一変して(会津藩と薩摩藩の結託、長州藩を排除)攘夷派が敗れ、大和行幸は中止。ここで天誅組の義挙はその大義名分を失ってしまう。その後、天誅組は高取城に侵攻したが撃退され、吉野各地で転戦するも追討軍は1万人を超え、内部の対立、十津川郷士の離反もあり、9月24日、東吉野村鷺家口に於いて決死的斬り込みを敢行して終わりを遂げた。

●時代背景

1853年、米ペリー艦隊浦賀に来航⇒1854年、日米和親条約を締結⇒1858年、日米修好通商条約を締結⇒安政の大獄⇒1860年、桜田門外の変⇒1863年、薩英戦争(生麦事件)、**天誅組の乱**⇒1864年、禁門の変⇒1865年、薩長同盟⇒1867年、大政奉還⇒1868年、鳥羽伏見の戦い、明治政府誕生

- 開催日: 令和4年9月30日(金) ※1. 雨天中止(前日に一斉メール)
- 集合: JR和歌山線五条駅に10:00集合
南海難波駅(8:19発)⇒橋本駅(9:11着)⇒JR橋本駅(9:29発)⇒五条駅(9:42着)
- 行程: JR五条駅集合(10:00)⇒桜井寺⇒五條代官所跡⇒民俗資料館・長屋門⇒五新鉄道跡⇒吉野川堤防(昼食・班長会議・集合写真)⇒西方寺⇒まちなみ伝承館⇒まちや館⇒栗山家住宅⇒JR五条駅解散(15:00)
五條市観光ボランティアガイドの会が案内いたします。行動は各班ごとで行い、Aグループは上記行程通り、Bグループは上記の逆コースとする。
※Aグループ: 3班、4班、5班の順
※Bグループ: 6班、1班の順
- 持ち物: 昼食、飲み物、帽子(日傘)、履きなれた靴、他
- 参加費: 無料(五條市観光ボランティアガイドの会のガイド料はそら組が負担)



桜井寺

1863年に五條代官所を襲撃した天誅組はこの寺に本陣を置き五條仮政府を称した。本堂前に代官鈴木正信(源内)ら5人の首を洗ったという石の手水鉢がある。



長屋門(民俗資料館)

江戸末期には五條代官所の長屋門だった建物で、1863年におこった明治維新のさきがけ天誅組の乱の際に代官所は焼き討ちに会い、幕府があらたに代官所を立て直した。平成15年、史跡公園及び長屋門を再整備した。



幻となった五新鉄道

明治時代の末頃、五條市から和歌山県新宮市までを結ぶ「五新鉄道」の計画、沿線は木材の産地で、鉄道を使って輸送する予定だった。工事は昭和12年に開始されたが、太平洋戦争がはじまり、物資不足等で工事は中断される。戦後、工事は再開され、五條・城戸間では軌道の設置を残すのみだったが、経済や社会情勢等の変化により、五新鉄道は実現することなく中止が決定された。